



日々新聞

第九一五号

彫政七

月夜子金

總政様

月夜子金
 との扱け々々々
 の尻うらまじ順慶町四目要嘉
 袋物高多が發明製法定の品小思く有て五天の大金
 求め夫家申明は二月七日の出火に其家類焼して去歸
 此大金のみ跡を残る板死して置し翌八日の夜又來る者
 有り番の僕伺ふ大金の手をひてアツとて取も得ざりぬ事
 三夜及ぶりもふとそそ空しく去る跡
 少考へる此家出火團を浴買此
 釜出盛小將置が出火の鳥火と
 ありより灰子あり底小火氣有る事
 元が有るを盗取事を仕事し是や野良の
 孫ら十六日の元者鳴やの番頭終る有る者
 の未幸ありと新聞紙小交交せり

